



# 第65期(平成25年3月期) 第2四半期決算説明会資料

---

---

平成24年11月1日



東洋水産株式会社



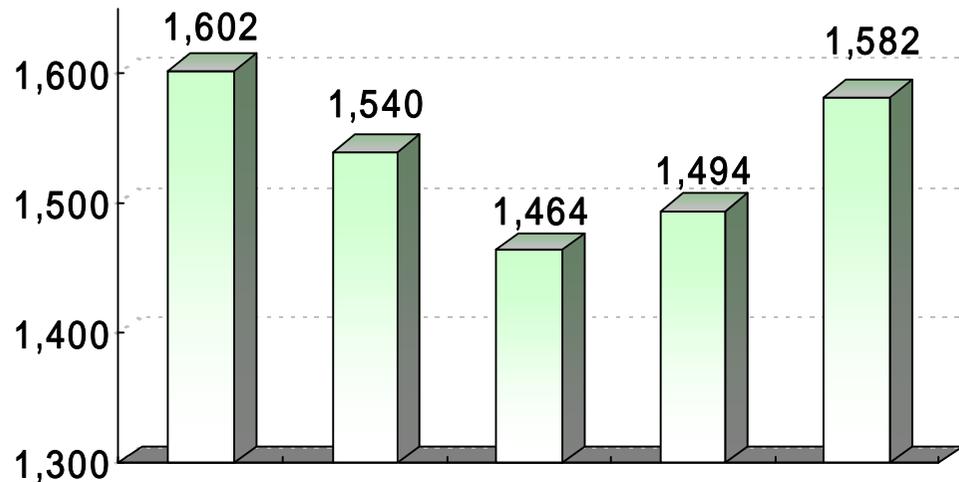
# 目次

	(頁)		(頁)
第2四半期(累計)連結業績	3	通期見通し	
上半期概況		国内即席麺事業 ……………	14
国内即席麺事業 ……………	6	低温食品事業 ……………	14
低温食品事業 ……………	8	水産食品・加工食品事業 冷蔵事業 ……………	17
水産食品・加工食品事業 冷蔵事業 ……………	10	海外即席麺事業 ……………	18
海外即席麺事業 ……………	11	連結通期予想 ……………	20
		配当方針 ……………	22

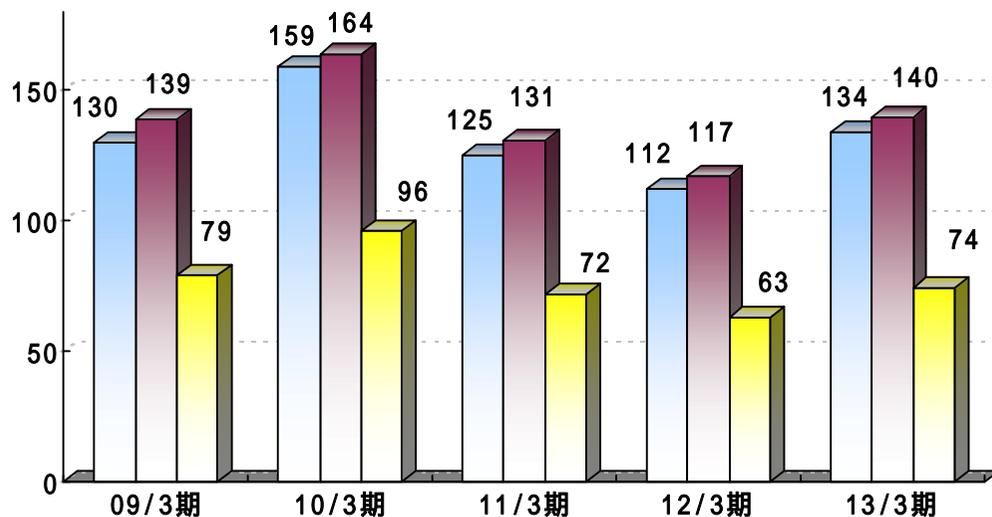


# 第2四半期(累計)連結業績

(億円) □ 売上高



■ 営業利益   ■ 経常利益   ■ 当期純利益



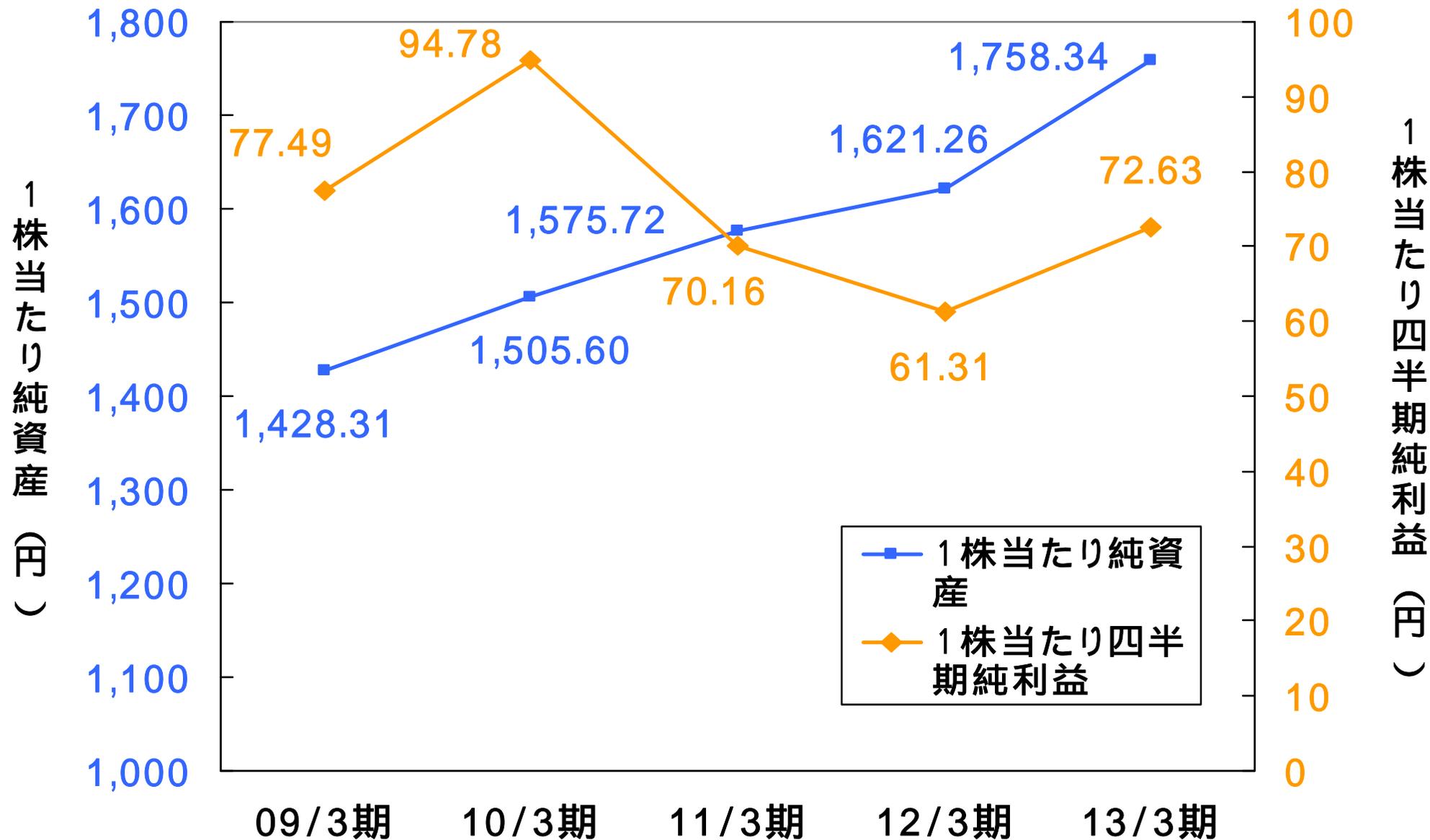
(億円)

	12/3期	13/3期	増減	
水産食品事業	150	160	+10	+6.6%
海外即席麺事業	254	285	+31	+12.2%
国内即席麺事業	451	493	+42	+9.3%
低温食品事業	333	325	8	2.3%
加工食品事業	78	83	+5	+6.3%
冷蔵事業	76	76	+0	+0.3%
その他	153	161	+8	+5.4%
<b>売上高合計</b>	<b>1,494</b>	<b>1,582</b>	<b>+88</b>	<b>+5.9%</b>

	12/3期	13/3期	増減	
水産食品事業	5	2	3	67.4%
海外即席麺事業	27	58	+30	+110.4%
国内即席麺事業	44	40	4	9.6%
低温食品事業	21	21	0	0.7%
加工食品事業	2	0	3	
冷蔵事業	6	7	+1	+11.9%
その他	10	11	+1	+9.3%
(調整額)	4	4	+0	-
<b>営業利益合計</b>	<b>112</b>	<b>134</b>	<b>+22</b>	<b>+19.5%</b>



# 第2四半期(累計)連結業績・・・経営指標の推移





# 上半期概況

---

---



# 上半期実績 国内即席麺事業

## ポイント

袋麺市場は縮小傾向にピリオド、市場拡大へ

「マルちゃん正麺」に新たに「塩味」を発売、  
売上高は前年比、計画比ともに大幅増

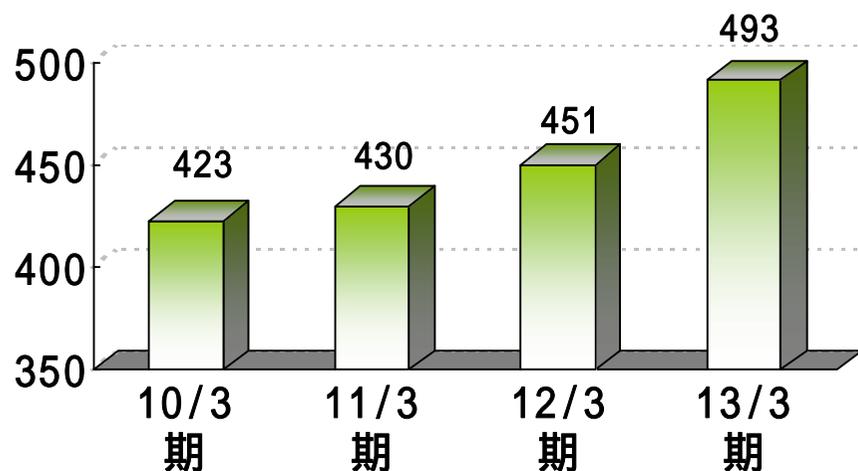
カップ麺は震災の反動もあり、前年比減少



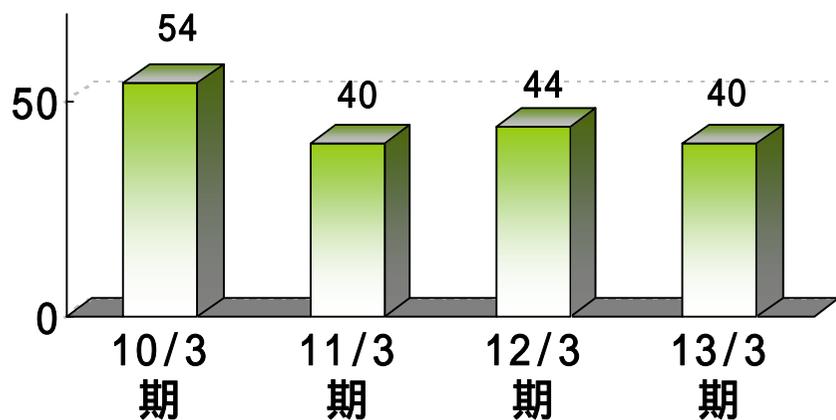


# 上半期実績 国内即席麺事業・利益増減要因

売上高 (億円)



営業利益 (億円)



	12/3期	13/3期	増減	
売上高	451	493	+42	+9.3%
営業利益	44	40	4	9.6%

利益増減要因	影響額
売上高増による利益増加	+ 13
原材料費減少による利益増加	+ 1
製造経費増加による利益減少	5
販売費・一般管理費増加による利益減少	13
合計	4



# 上半期実績 低温食品事業

## ポイント

### < 生麺 >

生麺市場は縮小傾向が続き、  
「外食」「中食」との競争が激化

「3玉うどん類」「ラーメン類」など、  
競合品との価格競争の影響で減収



### < 冷凍食品 >

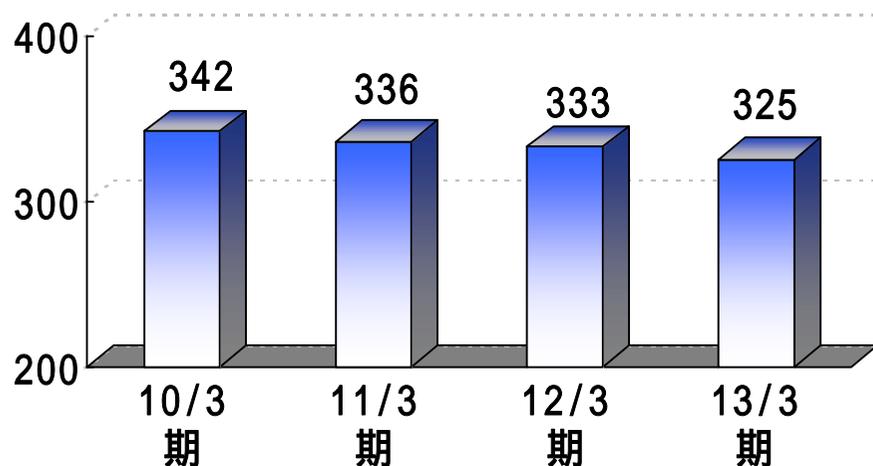
外食産業、事業用給食向けの  
冷凍麺需要が回復し、堅調に推移





# 上半期実績 低温食品事業・利益増減要因

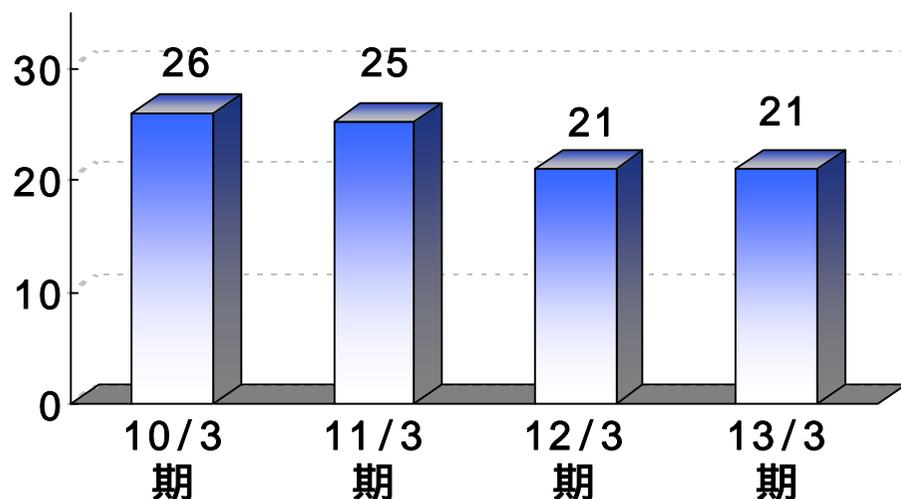
売上高 (億円)



(単位：億円)

	12/3期	13/3期	増減	
売上高	333	325	8	2.3%
営業利益	21	21	0	0.7%

営業利益 (億円)



利益増減要因	影響額
売上高減による利益減少	2
原材料費による影響	0
製造経費減少による利益増加	+ 2
販売費・一般管理費による影響	0
合計	0



# 上半期実績 水産食品・加工食品・冷蔵事業

## 水産食品事業

チリ産銀鮭を中心とした養殖鮭鱒の市況悪化により減益

## 加工食品事業

米飯：原料米の高騰、恒常的な  
市場の低価格化により収益環境が悪化

スープ類：F D スープラインを増設し、販売増の体制構築

## 冷蔵事業

電力料金値上げ吸収と  
積極的な集荷活動による高い入出庫・保管



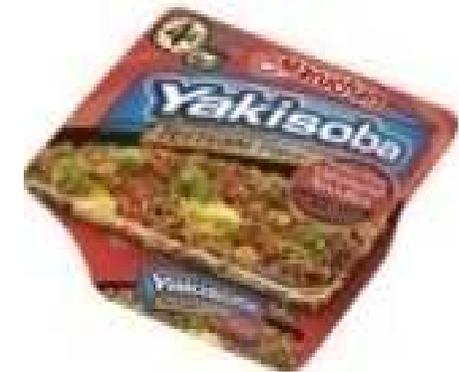
# 上半期実績 海外即席麺事業

## ポイント

売上数量は、前年比約 3 % 増で計画通りに推移

営業利益は、2011年実施の値上げ効果で、  
前年比大幅増で着地

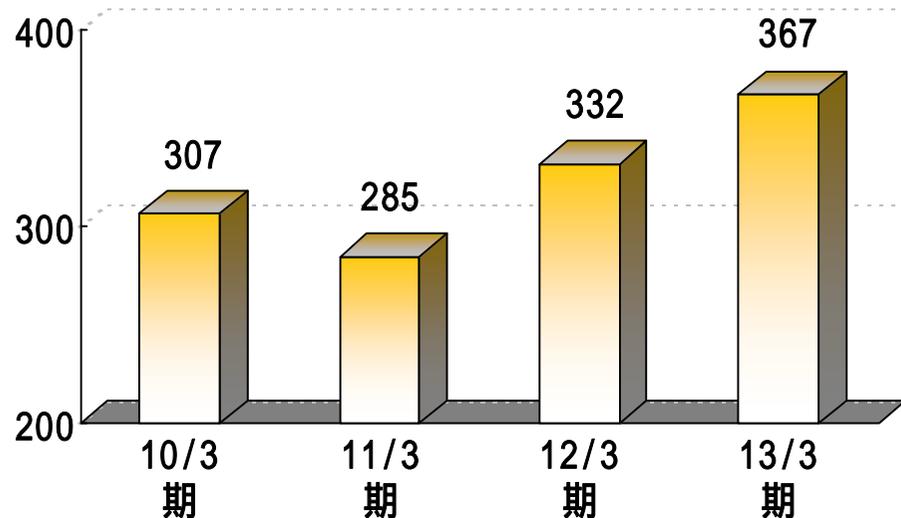
直近のシェア：米国約 65 %、メキシコ約 85 %





# 上半期実績 海外即席麺事業・利益増減要因

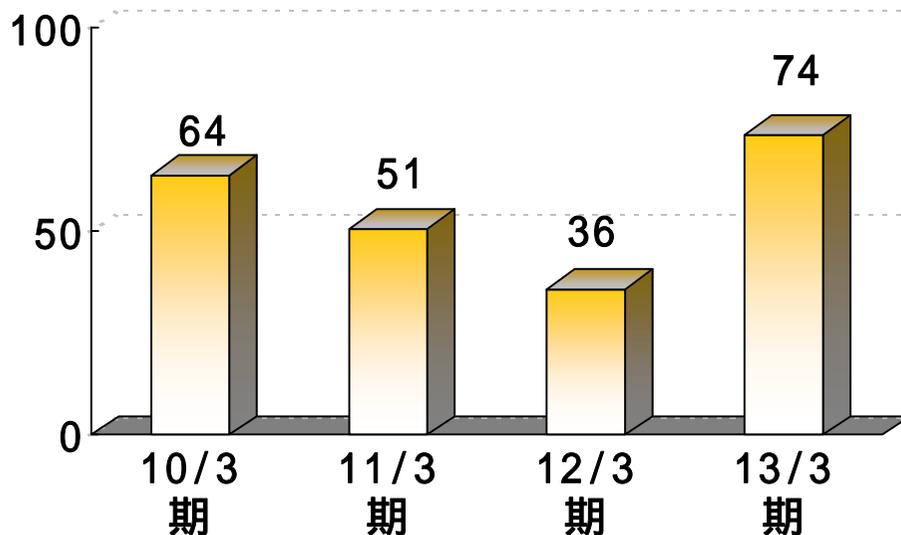
売上高 (百万ドル)



(単位:百万ドル)

	12/3期	13/3期	増減	
売上高	332	367	+35	+10.8%
営業利益	36	74	+38	+107.9%

営業利益 (百万ドル)



利益増減要因	影響額
売上高増加による利益増加	+ 31
原材料費減少による利益増加	+ 5
製造経費減少による利益増加	+ 1
販売費・一般管理費減少による利益増加	+ 1
合計	+ 38



# 通期見通し



# 通期見通し 日本

## ポイント

### < 即席麺事業 >

マルちゃん正麺のさらなる伸長で  
袋麺 1ブランドを目指す

売上高増により当初計画の営業利益の上振れ



### < 低温食品事業 >

主力既存品のブランド力向上、  
価格訴求を中心とした商品開発等を実施

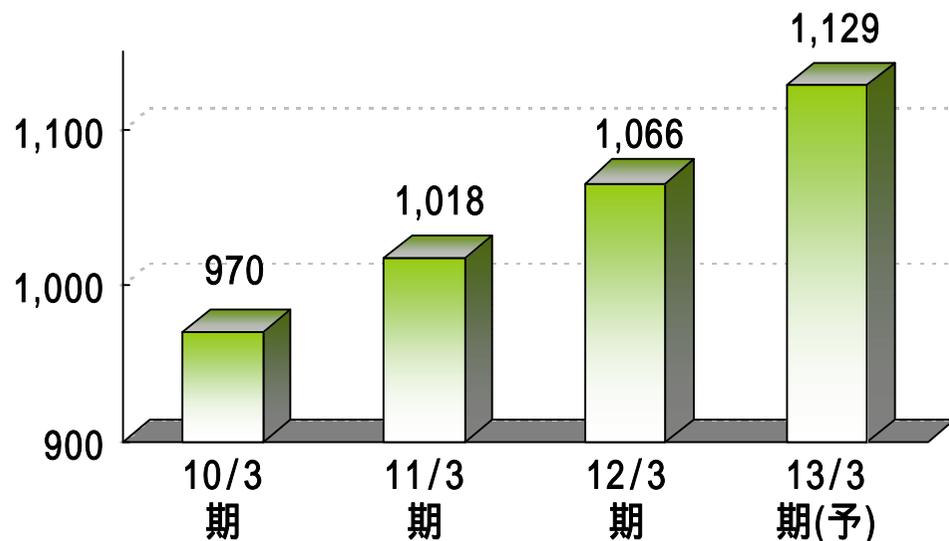
販促強化により前年を上回る売上高、営業利益を目指す





# 通期見通し 国内即席麺事業

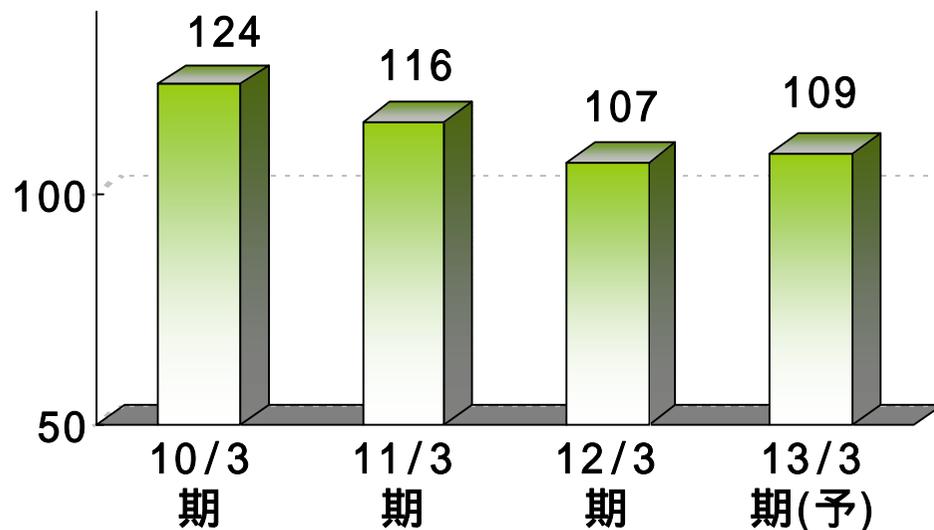
売上高 (億円)



(単位: 億円)

	12/3期	13/3期 (予)	増減	
売上高	1,066	1,129	+63	+5.9%
営業利益	107	109	+2	+1.6%

営業利益 (億円)

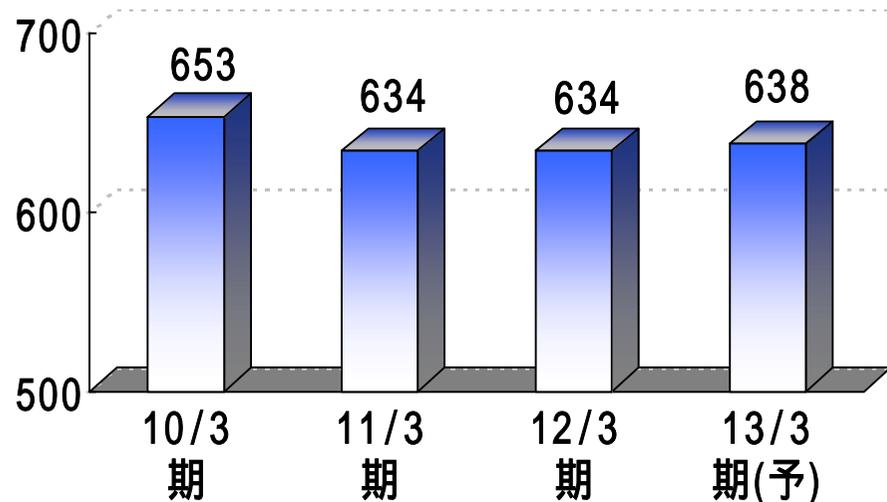


利益増減要因	影響額
売上高増による利益増加	+ 19
原材料費減少による利益増加	+ 5
製造経費増加による利益減少	6
販売費・一般管理費増加による利益減少	16
合計	+ 2



# 通期見通し 低温食品事業

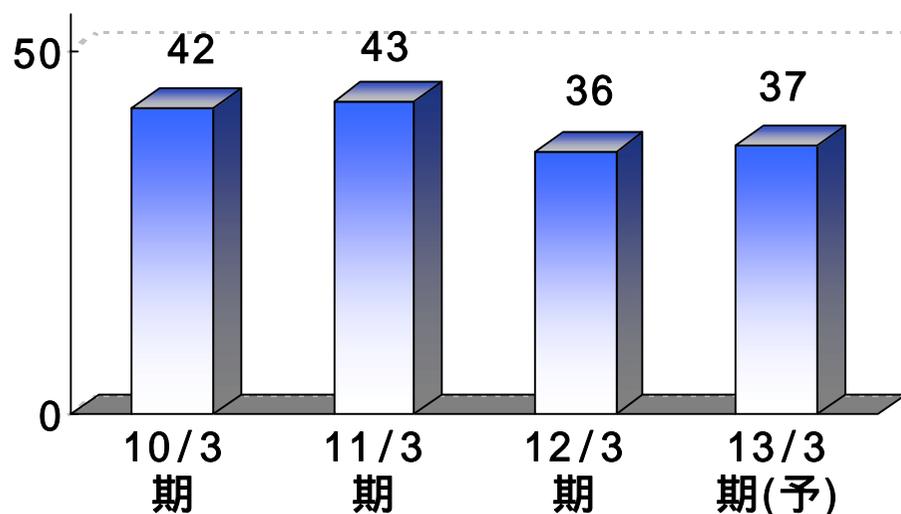
売上高 (億円)



(単位:億円)

	12/3期	13/3期 (予)	増減	
売上高	634	638	+4	+0.7%
営業利益	36	37	+1	+2.5%

営業利益(億円)



利益増減要因	影響額
売上高増による利益増加	+ 1
原材料費減少による利益増加	+ 1
製造経費減少による利益増加	+ 2
販売費・一般管理費増加による利益減少	3
合計	+ 1



# 通期見通し 水産食品・加工食品・冷蔵事業

## 水産食品事業

チリ産銀鮭の市況落ち着き、  
付加価値商品の開発、積極的な販売促進

## 加工食品事業

F D、レトルト技術を生かした新商品開発  
資材、原材料コスト見直しにより、通期利益計上へ

## 冷蔵事業

営業活動の強化、コストダウンによる  
売上、利益増を目指す



# 通期見通し 海外即席麺事業

## ポイント

原材料価格高騰による影響は限定的

新製品発売により

商品ラインナップを充実

BOWL型カップ麺 3 フレーバーを発売

商品値上げは、

販売環境・原料価格・他社動向を

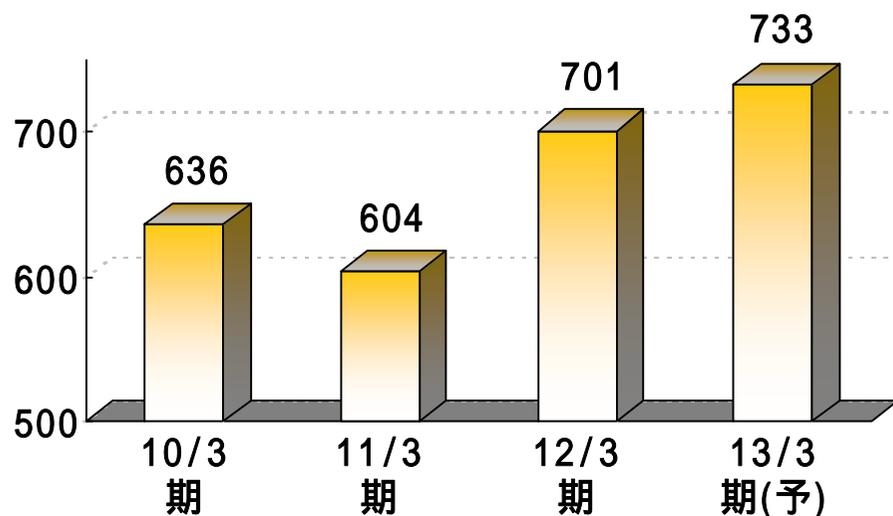
総合的に勘案して判断





# 通期見通し 海外即席麺事業

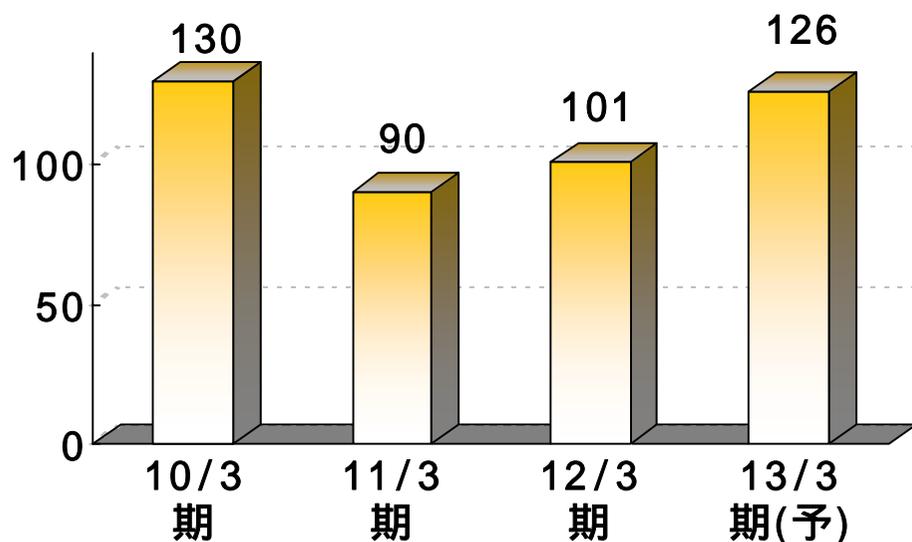
売上高 (百万ドル)



(単位:百万ドル)

	12/3期	13/3期 (予)	増減	
売上高	701	733	+32	+4.6%
営業利益	101	126	+25	+25.2%

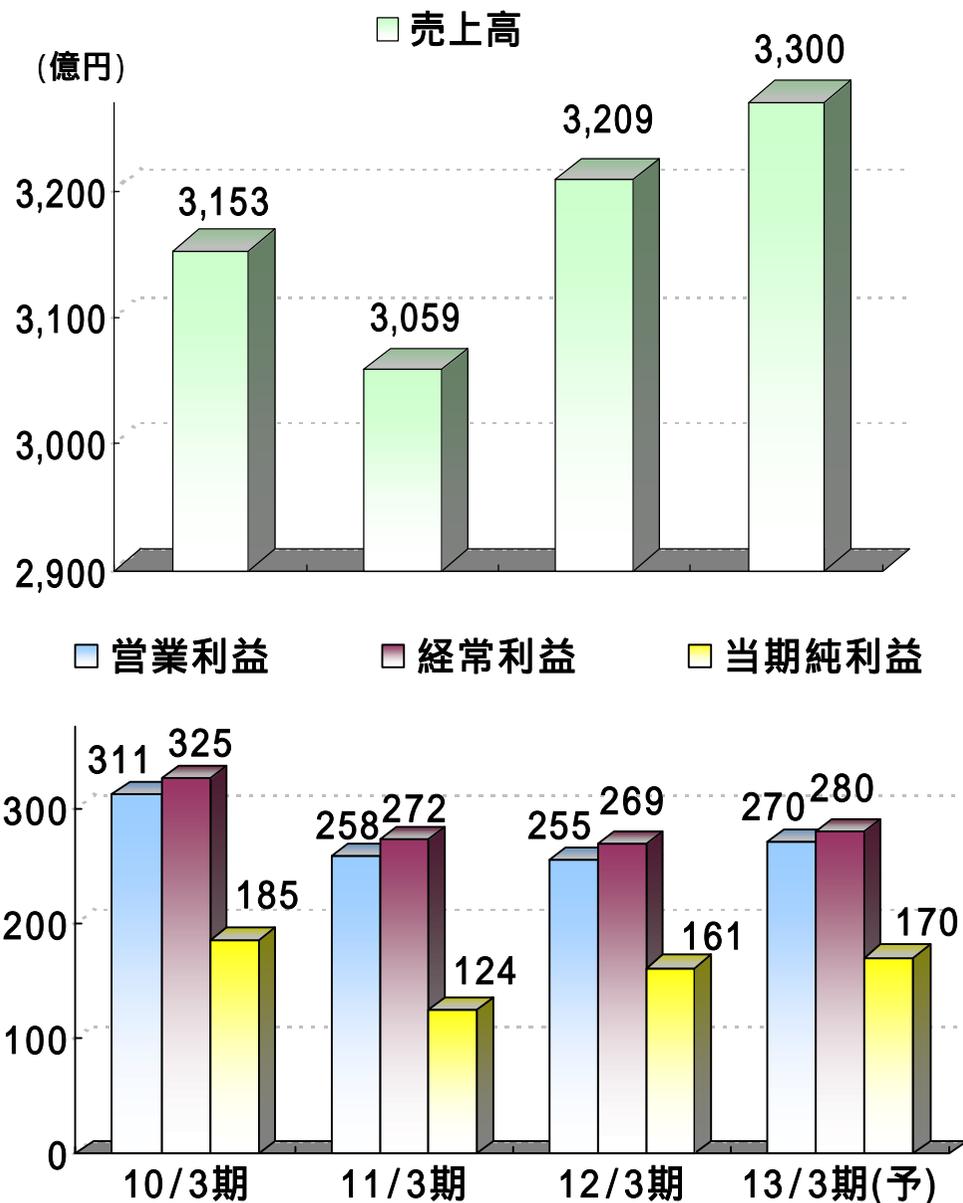
営業利益 (百万ドル)



利益増減要因	影響額
売上高増加による利益増加	+ 29
原材料費減少による利益増加	+ 2
製造経費増加による利益減少	2
販売費・一般管理費増加による利益減少	4
合計	+ 25



# 当期連結業績予想



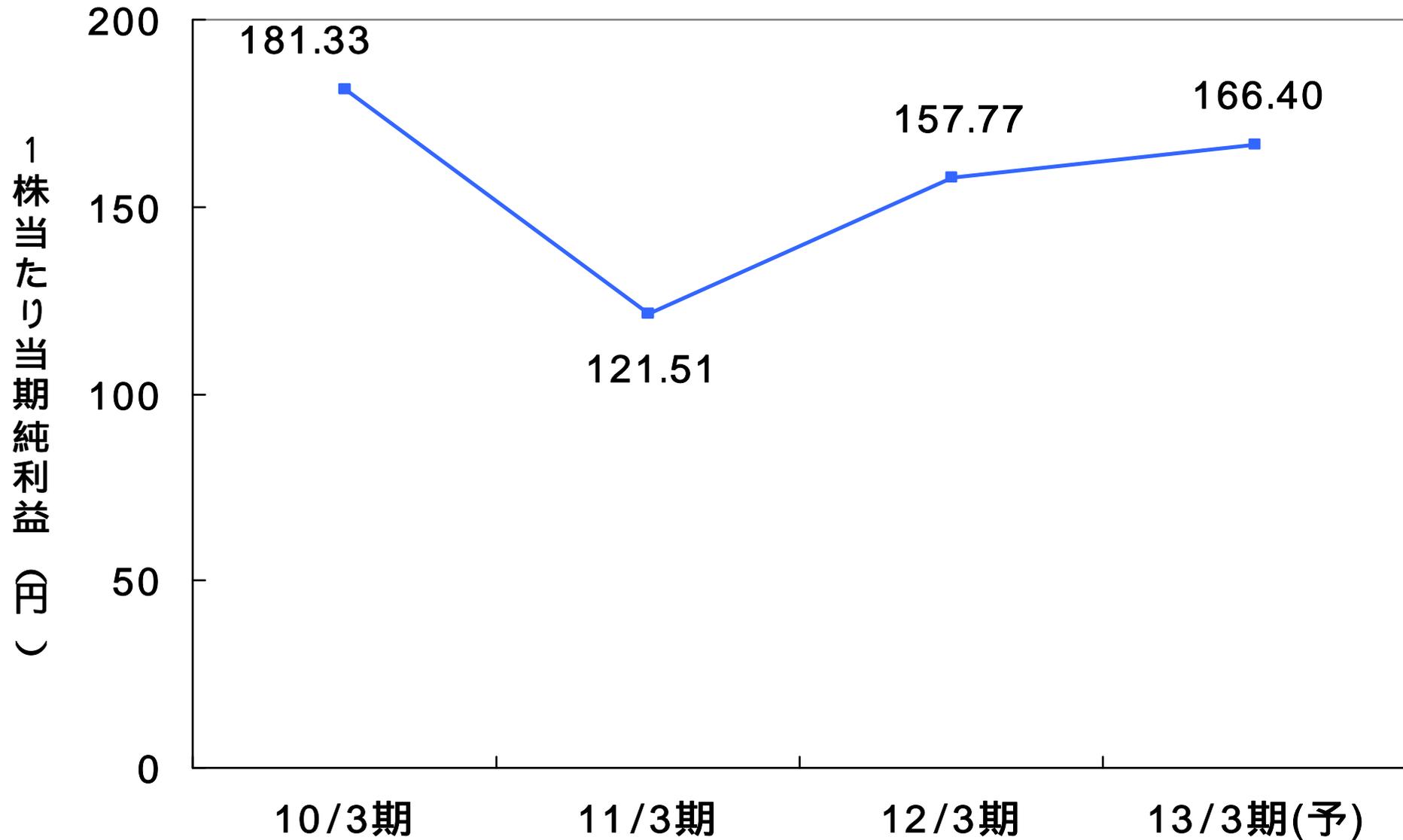
	12/3期	13/3期(予)	増減	
水産食品事業	326	335	+9	+2.9%
海外即席麺事業	576	572	4	0.6%
国内即席麺事業	1,066	1,129	+63	+5.9%
低温食品事業	634	638	+4	+0.7%
加工食品事業	172	181	+9	+5.0%
冷蔵事業	148	150	+2	+1.2%
その他	287	295	+8	+2.5%
売上高合計	3,209	3,300	+91	+2.8%

	12/3期	13/3期(予)	増減	
水産食品事業	9	5	4	42.1%
海外即席麺事業	83	98	+15	+18.3%
国内即席麺事業	107	109	+2	+1.8%
低温食品事業	36	37	+1	+2.5%
加工食品事業	5	1	4	82.7%
冷蔵事業	12	12	+0	+4.2%
その他	14	16	+2	+9.6%
(調整額)	11	8	+3	-
営業利益合計	255	270	+15	+5.8%

13/3期 想定為替レート 78円 (12/3期為替レート 82.13円)



# 当期連結業績予想 1株当たり当期純利益



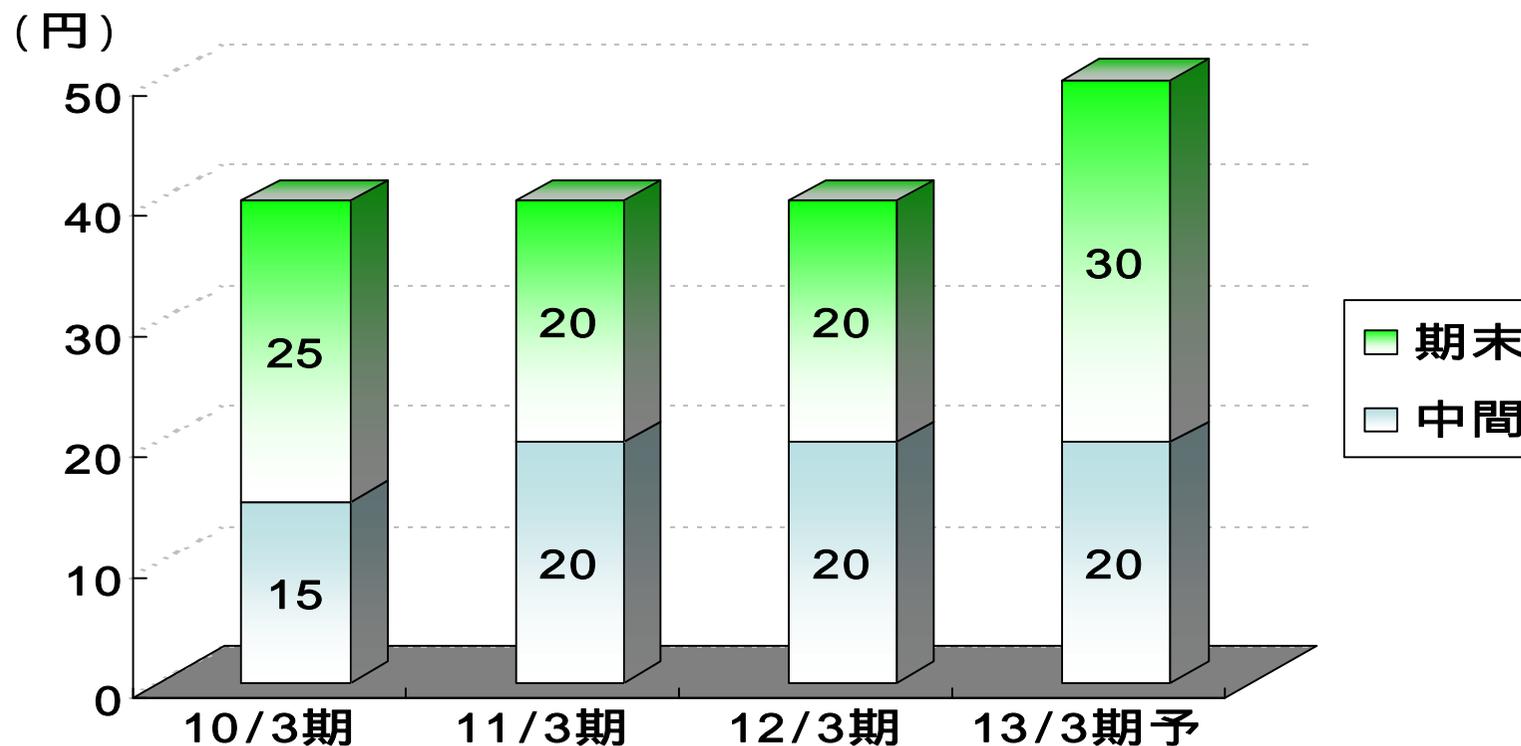


# 配当予想

## 配当予想

創立60周年を記念し、期末に記念配当10円を予定

期間業績を加味しながら長期的な安定配当の実施を目指す



# Smiles for All.

すべては、笑顔のために。

当資料に掲載されている、東洋水産株式会社の計画、見通しや戦略など歴史的事実でないものは将来の業績に対しての見通しであり、現時点で入手できる情報から得られた東洋水産株式会社の経営者の判断に基づいております。

実際の業績については様々な要因により、見通しとは異なる結果をもたらしうることをご承知おきください。



## 東洋水産株式会社